馬耳東風

21世紀が疾走を始めて早くも今年で10年目を迎える．ミレニアムを意識し新たな世紀を迎えたあの頃の一人ひとりの思いや価値観は，どんな展開になっているだろう．まだほんの入り口だと言えばそれまでだが，物凄い変革のスピード感を誰もが感じているはずだ．10年前の拙い年頭書きを紐解いてみた．「いよいよ21世紀の入り口に立って，科学革命による自然観のとらえ方や技術の変化によって，今や一方はITと言われる情報技術の分野であり，かたやBTと言われるバイオ技術ということになるのだろう．自律行動をとるエンターテイメントロボットが登場し血の出ないペットに心理的癒しを期待し，一方BTによる生命操作は当たり前となり人の叡智が科学の進歩に追いつかない実情があり科学の功罪の落差が課題だ」と．世界的な社会構造の変革は，資本主義に裏打ちされた構造化に音をたてて傾斜した．ロシアはもとより，共産党一党支配の中国の改革開放による資本主義経済化，インドに見るIT改革による経済発展には目を見張るものがある．豊かになりたいという願望は，常に競争を原理として発展する．計画経済による行き詰まりは，基底に安定を求め願望の原理を満たせなかったからだ．しかしながら，ここにきて世界を席捲したかに見えた資本主義の歪が経済危機として表面化し，将来何をどのように求め何をなすべきか世紀的な課題として大きくのしかかってきた．

高度な数学的手法やコンピューターを用いてデリバティブなど金融商品の開発やリスク管理を行う技術が開発導入され，金融工学と言う学際的分野が誕生したが，世界的なマネーゲームで加速度的に経済混乱と金融危機を引き起こし虚業だとする反発意見さえある．しかしながら資本主義は，資本の無限の増殖を目的とし，利潤を永続的に追求する経済体制であり市場原理の上に成り立っている．その競争力の決め手としての自己変革力・マーケットシェア・価格・品質の四つの競争軸に新たな第5の競争軸を不可欠とし，環境改革（グリーン・イノベーション）と持続可能性（サステナビリティ）の追求だとデンマーク生まれのピーターD.ピーダーセン氏は説く．国内企業に限らずこの文明的転換は既に始まっていると理解される．資本主義の不都合さの一つは，効率性と安定性の二律背反である．また，古典的企業と法人企業の体質的な違いがあり，法人企業は人と物の二面性を持つことを理解したい．現今，経営者の倫理性は当然ながら重く問われ，危機のあらわれは株主主権や金融資本の凋落と関連している．偏った繁栄や危機は経済の金融化にあるようだ．岩井克人東大教授は，資本主義が健全に生き続けるには自由放任主義からの解放が必要だと説く．人類は永遠に創造の生き物であり，創造性は支配されない無限の価値を持つ．年頭にあたり，どうやら資本主義改善の課題が見えてきたようだ．（柏）